

KANAZAWA COLLEGE OF ART
NEW CAMPUS PLAN

金沢美術工芸大学
移転整備基本構想
概要版

金沢市

金沢美術工芸大学移転整備基本構想の策定にあたって

金沢は、藩政期から培われてきた歴史や伝統、学術、文化を保存・継承すると同時に、これらに新しい価値を加えながら、創造的なまちづくりを進めてきました。

このようなまちの個性、他都市にはない魅力をさらに高め、市民が誇れるまちであり続けるためには、世界の「交流拠点都市金沢」として、これまでに培われたストックを最大限に活用することにより、国内外から人・モノ・情報の集積を図り、その交流を通じて新たな価値を創造し、持続的な発展を続けることが重要です。

その実現に向け、平成 26 年に『世界の交流拠点都市金沢重点戦略計画』を策定し、金沢美術工芸大学の移転整備を重点施策の一つとして位置づけました。

その金沢美術工芸大学は、全国多数の都市が灰燼に帰した昭和 20 年、「美術工芸の伝統を維持してきた本市が戦後日本の文化興隆の一翼を担うことは非戦災都市としての義務である」として、多くの市民、先人達が、設立に向けて奔走し、昭和 21 年 11 月 7 日に開学した金沢美術工芸専門学校が、その原点です。「美の創造を通じて人類の平和に貢献する」ことを理想に掲げ、昭和 30 年には柳宗理氏等を教授に迎えて 4 年制大学となり、美術・工芸・デザインの各分野において、個性豊かな教育等に取り組み、これまでに多くの人間国宝や第一線で活躍するクリエイターを輩出し、国内外の文化・芸術の発展を支えてきています。

しかしながら、金沢美術工芸大学の活動拠点である現キャンパスは、開校以来 40 年が経過し、老朽化が進むとともに、教室や作業スペースも充分に確保できないことから、平成 28 年 2 月 26 日に金沢美術工芸大学から、美の創造を通じた社会貢献と、地域に根ざし、世界に拓かれた創造拠点をめざすため、新キャンパス構想をまとめた報告書をいただきました。私は、この報告書に含まれている大学の熱い思いをしっかりと受け止め、今般、今後の整備方針等をまとめた「金沢美術工芸大学移転整備基本構想」を策定しました。

本市の発展に大きく寄与してきた金沢美術工芸大学は、開学から 70 年を迎えた記念すべき年に、大きな一歩を踏み出そうとしています。文教地区である金沢大学工学部跡地への移転整備は、大学の発展とともに、本市の品格のさらなる向上に大きく貢献するものであり、また、この基本構想がそれらに資する充分な内容であると確信をしています。

結びに、本構想の策定にあたり、ご熱心にご議論いただきました金沢美術工芸大学移転整備基本構想検討懇話会の委員の方々をはじめ、貴重なご意見、ご提案をお寄せくださいました市民の皆様やご協力をいただいた関係各位に心から感謝を申し上げます。

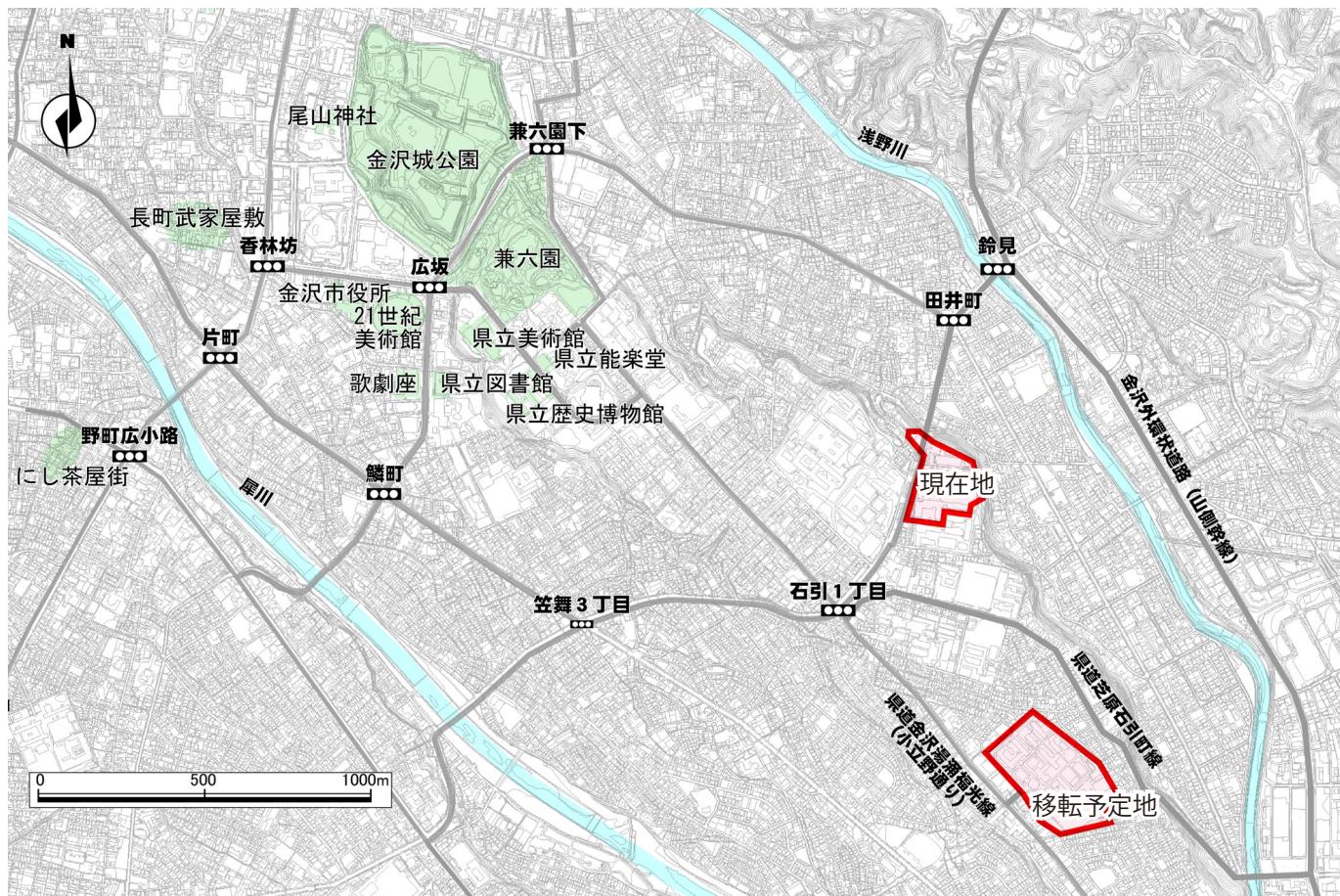
金沢市長 山野 之義

1

構想策定の趣旨

金沢美術工芸大学は、昭和 21 年の金沢美術工芸専門学校の開校以来、美術・工芸・デザインの各分野において、個性豊かな教育等に取り組み、国内外の文化・芸術の発展を支えてきました。しかしながら、現キャンパスは老朽化が進み、また、教室や作業スペースも充分に確保できない状況にあります。

そこで、金沢美術工芸大学のさらなる発展と本市がめざす世界の「交流拠点都市金沢」の実現に向けて、金沢大学工学部跡地への移転整備に向けた「金沢美術工芸大学移転整備基本構想」を策定しました。



＜移転予定地の概要＞

移転予定地は、これまで 90 年近く教育機関が立地してきた歴史があります。

全体の敷地面積：約 8.4ha (83,902 m²)

本市取得予定面積：約 4.7ha

用途地域：第二種中高層住居専用地域（建ぺい率：60%、容積率：200%）

高度地区：15m

2

現キャンパスの課題

施設の老朽化

安全で快適な教育研究環境を確保するため、施設の老朽化の改善及び耐震性の確保が求められています。

機能強化のためのスペース不足と芸術分野の多様化、新規分野への対応

時代のニーズに応じた人材を育成するため、教育研究環境の充実や機能拡充など、教育内容の強化を図るためのスペース確保が求められています。

非効率な施設配置

施設の利便性や作業効率の向上、専攻間の連携強化を図るため、学生や教職員、来訪者の動線を考えた有機的な施設配置が求められています。

ユニバーサルデザインへの対応

学生や教職員、関係者等の多様な人々の利用に配慮した、人に優しいユニバーサルデザインに基づく機能の充実が求められています。

3

移転整備の基本理念

美の創造を通じて人類平和に貢献する人材育成

移転整備において適切な規模と必要な設備を整え、金沢美術工芸大学で、これまで取り組んできた高い教育水準を維持しつつ、美術・工芸・デザインの分野における質の高い教育研究を実践することで、様々な資質や能力を備える学生の高い専門性と豊かな人間性を育みます。

また、美の創造を通じて人類の平和に貢献する人材を育てるとともに、国内外の美術系教育研究機関や他分野との連携による高度な学術研究を推進していきます。

金沢に根ざす美と知の創造拠点

今後、少子高齢化の進展など、課題が多様化するなか、金沢美術工芸大学では、地域貢献の質的向上を図るとともに、ユネスコ・クラフト創造都市にふさわしい美と知の創造拠点としての飛躍をめざした国際交流機能を強化し、海外を含め、様々な創造活動が交流する拠点の形成をめざします。

4

基本理念を実現するための施設整備方針

施設整備の方向性

- 金沢から世界に拓く 美と知の創造拠点
- 地域と学生をつなぐキャンパス

- ・金沢美術工芸大学のさらなる飛躍を図るため、世界の交流拠点都市金沢の新たなシンボルとして、美と知の創造拠点の形成をめざします。
- ・これまで取り組んできた産学連携や地域連携をさらに継続・発展させ、大学と地域、学生と地域をつなぐための施設整備を推進します。
- ・整備にあたり、基本理念や方向性の実現に向け、互いに刺激しあいながら創造性に溢れた人材の輩出につながり、柔軟性と機能性を兼ね備え、芸術系大学にふさわしく、かつ金沢の新たなシンボルとなるよう、質の高い創造的な建築デザインをめざします。

【整備方針の概念】

施設整備の方向性

- 金沢から世界に拓く 美と知の創造拠点
- 地域と学生をつなぐキャンパス

整備方針

金沢のシンボル（創造的建築）

人材育成拠点（教育）

- 芸術教育の基盤（学部）
 - ・基礎的な造形力を育み、分野間で相互に刺激しあう空間の創出
 - ・柔軟性の高い施設整備（演習室、実習室等）
- 多様なメディア環境に対応した機能
 - ・メディアセンター（新設）



美と知の研究拠点（研究）

- 文化芸術の研究拠点（大学院）
 - ・複数分野に対応した施設整備（演習室、実習室等）
- 国際交流機能
 - ・国際交流センター（新設）
- 社会連携（産学連携・地域連携）機能
 - ・社会連携センター（新設）



文化芸術の交流拠点（地域）

- 文化芸術の発信拠点・地域連携
 - ・附属美術館（新設）
 - ・附属図書館、美大ホール（多目的ホール）
- まちなかの活動拠点
 - ・サテライトキャンパス
- 諸施設との連携
 - ・21世紀美術館、卯辰山工芸工房、湯涌創作の森、市民芸術村 など



施設の整備と配置・周辺との調和

柔軟性・機能性を重視した施設配置

安全で快適なキャンパスライフを実現するための施設整備

緩衝緑地など、周辺環境に配慮した施設配置

方針1 未来を担う人材育成拠点

■ 世界で活躍する人材の育成

芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材、世界に通じるアーティストやデザイナー等を育成するため、柔軟性を兼ね備えた演習室や実習室、制作室等を配置し、互いに刺激しあいながら創造的な感性が磨かれる施設整備に取り組みます。

■ 芸術教育の基盤となる学部教育の環境整備

これまでの伝統を継承し、美術・工芸・デザインなど、芸術教育の基盤となる学部教育において、専門的で基礎的な造形力を育み、分野間や専攻間で相互に刺激をしあう空間の創出、柔軟性の高い施設整備に努めます。

■ 将来を見据えたメディア機能の充実

大学が持つ資料やデジタルアーカイブ、知的財産を管理するとともに、映像表現やアニメーションなど、未来を見据えたメディア芸術分野における人材を育てるため、スタジオや編集室等を備え、多様なメディア環境に対応した機能をメディアセンターとして整備します。

■ 高度な社会人教育と外国人留学生を含めた生涯学習の推進

幅広い層の社会人や外国人留学生が新たな知識や高度な技能を習得し、生涯にわたり芸術を学べる機会の確保に努めるなど、社会人教育や外国人留学生の受入、生涯学習を推進する施設整備に努めます。

方針3 地域に開かれた文化芸術の交流拠点

■ 文化芸術の発信拠点と市民に開かれたコミュニティ空間

金沢美術工芸大学は人間国宝等の作品や平成の百工比照関連資料をはじめ、優れた美術作品や関連資料等を多数所蔵しています。これらの作品や資料を広く一般市民に公開するため、様々な展示内容に対応したスペースや収蔵機能を備えた芸術系大学にふさわしい大学附属美術館を整備します。

また、美術・工芸・デザイン関連の図書を中心に11万冊を超える蔵書を有する大学附属図書館のさらなる充実や美大ホールの多目的利用化を図るなど、市民が気軽に散策し、芸術に触れることができる、地域に開かれた大学としての施設整備に取り組みます。

■ 地域連携のさらなる充実

地域に根ざし、地域に開かれた大学として、これまで以上に社会貢献を実践していくため、美術・工芸・デザインの各分野における地域活動やその成果を公開するスペースを確保するなど、社会連携センターを整備し、地域連携のさらなる充実を図ります。

また、金沢21世紀美術館、金沢卯辰山工芸工房、金沢湯涌創作の森、金沢市民芸術村等が市内に集積する強みを生かし、金沢美術工芸大学との連携強化に努めます。

方針2 世界に飛翔する美と知の研究拠点

■ 文化芸術の研究拠点としての大学院

専門分野における独創性を有し、その領域を超えた大局観を養い、未来を切り拓き世界で活躍できるリーダー的な人材を育てるために大学院を文化芸術の研究拠点として位置づけ、複数の文化芸術分野に対応した教育研究活動を実践するための施設整備に取り組みます。

■ 国際交流機能の強化

欧米や姉妹都市など、海外における交流協定締結校とのネットワーク強化や大学が設置したアジア美術戦略会議の開催、留学生との共同制作や交流など、文化芸術における世界的な視野で教育研究活動を実践するための機能を国際交流センターとして整備します。

■ 産業との連携

大学がこれまで取り組んできた共同研究やものづくり産業との連携を積極的に推進するため、美術・工芸・デザインの各分野における研究活動や研究成果を公開するスペースを確保するなど、継続して产学連携を実践していくための機能を社会連携センターとして整備します。

■ 文教地区にふさわしい地域環境の形成

これまでも高等教育機関が立地してきた小立野・崎浦地区において、金沢美術工芸大学移転予定地に隣接して、県立図書館の移転整備が予定されています。附属図書館を含む大学機能全体のさらなる充実を図り、附属図書館と県立図書館の特徴や特性を生かしながら、それが文教地区にふさわしい拠点として、地域環境の形成に努めます。

■ まちなかにおける活動拠点

大学の授業や制作活動、作品展示ができ、地域との交流が生まれるようなサテライト施設について、旧学校施設等の活用を検討するなど、まちなかにおける活動拠点の設置に取り組むとともに、学生が卒業後も本市で制作活動に励むことができるよう、制作・展示スペースなど、支援のあり方について検討します。

また、市内のコンベンション施設や宿泊機能を有する施設との連携強化についても検討します。

5

施設配置の考え方

新キャンパスは、現行の規制等を遵守し、周辺環境に配慮しつつ、現キャンパスにおける諸課題の解消に努め、教育研究機能や学内外との連携・交流機能が最大限に発揮できるよう、有機的な施設配置に取り組み、文化芸術ゾーンにふさわしい統一感のある空間を創出します。

柔軟性・機能性を重視した施設の配置

- ・講義室や演習室、実習室や制作室等は分野間の共有化を図りつつ、可能な限りフレキシブルに使用できる施設配置を検討し、創作活動にふさわしい空間の創出を図ります。
- ・教育研究機能や事務局機能等は、敷地中央に集約し、機能的な施設配置を検討します。
- ・実習棟は、空間の高さを確保し、可能な限り敷地の中央部に配置します。
- ・作品等の収蔵スペース、倉庫等を可能な限り確保するよう検討します。
- ・附属美術館や生涯学習機能等の附属施設は、市民が利用しやすい配置を検討します。

安全で快適なキャンパスライフを実現するための施設整備

- ・安らぎや憩いの空間の確保に配慮した施設整備に取り組みます。
- ・ユニバーサルデザインに基づく施設整備に取り組みます。
- ・災害に強い安全性と災害時における地域防災拠点機能を備えた施設整備に取り組みます。

緩衝緑地など、周辺環境に配慮した施設配置

- ・騒音など、周辺の住環境に配慮するとともに、LED照明の導入等による省エネ機能の向上を図ります。
- ・学内における排水処理の徹底に努め、環境にやさしいエコキャンパスを推進します。
- ・住宅地と隣接する境界部には、緩衝機能を有する高木等の植栽や施設の圧迫感を軽減するための運動場等を配置します。
- ・市民や学生、教職員の憩いの空間を創出するとともに、災害時における緊急避難場所としての役割を担うオープンスペースの配置を検討します。

6

移転整備における留意事項・課題等

- ・移転予定地は風致地区に挟まれた地域であり、その周辺には、国史跡の辰巳用水が流れしており、良好な自然環境との調和を意識した整備が必要です。
- ・移転予定地は、旧工学部の土地利用（研究棟、運動場）や隣接する道路との高さ合わせのために生じた段差があり、既存の段差を考慮した施設整備を検討する必要があります。
- ・市民にとって身近な存在となるためのアクセス整備や市民がキャンパス内を自由に散策できる動線等の検討が必要となります。

（お問い合わせ）

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号

金沢市都市政策局企画調整課（金沢美術工芸大学建設準備室）

TEL : 076-220-2031 FAX : 076-264-2535

E-mail : kikaku@city.kanazawa.lg.jp

(H29. 2)